

第 16 回 上越市公文書センター出前展示会 (1月4日から 2月28日まで)

「60年前の成年—昭和33年(1958)—の出来事」

今から 60 年前の昭和 33 年 (1958) はどんな年？

今年の干支は 戊戌 ですが、60年前の戊戌—昭和33年(1958)—には、日本全体ではどんな出来事があったのでしょうか。主なものは右の表のとおりです。ちょうど日本は高度経済成長時代に突入した頃でした。「人間の条件」(五味川純平)や「日のあたる坂道」(石坂洋次郎)がベストセラーになり、テレビ番組では「月光仮面」(TBS)や「事件記者」(NHK)が人気を博しました。

昭和33年は、上越市域でも現在に通じる大きな変化が見られた年でした。今回は、60年前の上越市域に起こった出来事を振り返ります。

昭和 33 年に日本で起きた主な出来事

月 日	出 来 事
1月 1日	東京通信工業が社名をソニーに変更
3月30日	国立競技場完成
4月 5日	巨人の長嶋茂雄選手が四連続三振でデビュー
8月25日	「チキンラーメン」発売
11月27日	明仁皇太子殿下と正田美智子さんの婚約発表
12月11日	1万円札発行
12月23日	東京タワーの完工式挙行

昭和の大合併の終盤 ～高田市から石橋・三交が分離、直江津市へ編入～

昭和28年(1953)9月1日に施行された町村合併促進法及び昭和31年6月30日に施行された新市町村建設促進法(いずれも3か年の時限立法)により、高田地区と直江津地区では、いわゆる「昭和の大合併」が行われました。高田地区では4期に分けて、直江津地区では3期に分けて合併が行われましたが、昭和33年当時は高田・直江津地区の合併が終盤を迎えていました。

昭和33年4月1日には、境界変更により、石橋・三交地区が高田市から分離し直江津市に編入されています。石橋・三交地区は旧春日村の村域であり、昭和30年に同じく旧春日村の村域であった五智地区が高田市から直江津市に境界変更された際、石橋・三交地区でも直江津市へ編入したいという要望をもっていました。しかし、地籍が複雑に入り混じっていることや住民全体の意思統一が図られていなかったことから実現しませんでした。昭和33年4月1日の境界変更前も、反対派住民の陳情が行われ紛糾しましたが、最終的に新潟県町村合併調整委員会の調停により、直江津市への境界変更が実現しました。

昭和 33 年当時の高田市と直江津市の市域



映画館の隆盛とテレビ放送の開始

昭和33年に国内の映画館入場者数・映画館数・映画製作本数は、いずれもピークを迎えました。同年、高田市には6か所、直江津市には3か所の常設映画館があり、上越市域でも人々の娯楽の中心は映画鑑賞でした。名称変更も含めて、昭和31年から翌年にかけて高田・直江津両市で4つの常設映画館が開館していることから、その隆盛ぶりが分かります。ちなみに、昭和33年に最もヒットした邦画は「忠臣蔵」(長谷川和夫主演)、洋画は「十戒」(チャールトン・ヘストン主演)でした。

昭和33年に高田・直江津にあった常設映画館

- ★ 高田シネマ (昭和23年～：本町2)
- ★ 高田中央劇場 (昭和23年～：仲町3)
- ★ 文化劇場 (昭和23年～：大町2)
- ★ 高田大映 (昭和31年～：本町6)
- ★ 高田東映劇場 (昭和31年～：仲町3)
- ★ いづも屋劇場 (昭和32年～：本町6)
- ☆ 直江津第一劇場 (昭和26年～：中央3)
- ☆ 直江津銀座劇場 (昭和26年～：中央3)
- ☆ 直江津東映劇場 (昭和31年～：住吉町)

「週刊文化」(昭和33年1月1日号)に掲載された映画広告



昭和33年に上越市域で起きた主な出来事

月日	出来事
1月24日	第9回清水高田中学校交歓会、清水市の中学生70名が高田を訪問(~27日)
1月25日	高田市購入の除雪車の試運転
2月15日	高田市民スキー大会で初めてたいまつ滑降・行進実施
4月1日	高田市石橋・三交(戸数52戸、310名)が直江津市に編入
"	直江津市立図書館が直江津公民館から独立
4月5日	観桜会開幕(~14日)
4月14日	板倉発電所トンネルが落盤、中江・上江両用水大被害
5月11日	諏訪有線放送局が開局
5月18日	直江津電報電話局開局、自動電話への切替実施
5月30日	新潟労災病院開院
7月7日	高田祇園祭開幕
7月14日	直江津祇園祭を「港まつり」に改称(~16日)
8月4日	第10回清水高田中学校交歓会、高田市内中学生70名が清水市を訪問(~8日)
8月6日	高田まつり開幕(~10日)
8月11日	高田自衛隊演習地買収、中郷村と調印
9月13日	第33回謙信公祭開催
9月18日	台風21号、合併前上越市域で被害発生
11月2日	直江津港河口分流工事起工式
"	高田別院再建落成式
11月10日	全県ネズミとり運動(~12月10日)
12月1日	メートル法使用推進月間(~31日)
"	NHK新潟放送局、テレビ本放送開始
12月25日	ラジオ新潟テレビ(現BSN)、本放送開始
12月	国道18号の藤巻から旧新大高田分校北側(現上越高田駅入口交差点)までの改良工事が完了(舗装は翌年)

一方、昭和33年の秋には弥彦山々頂にテレビ電波中継塔が完成しました。これを受けて、12月1日にNHK新潟放送局、同月25日にラジオ新潟テレビ(現BSN)がそれぞれ本放送を開始しました。上越市域でもこれを機会にテレビが視聴できるようになり、昭和33年がテレビ時代の幕開けの年になりました。昭和34年3月31日時点で、新潟県内のテレビの普及率は4.3%でしたが、高田市は6.4%、直江津市は5.4%、東頸城郡は0.7%、中頸城郡は2.4%、西頸城郡は4.3%という状況でした。なお、当時のテレビ受像機(14インチ)の価格は約70,000円でした。大卒者の初任給は、昭和33年が約13,500円、平成29年は約205,000円であり、60年間で約15.2倍になっています。これに基づいて当時のテレビ受像機の価格を現在の物価に換算すると、約1,064,000円になり、一般庶民には高嶺の花だったことが分かります。ちなみに、昭和33年には「全県ネズミとり運動」が実施されましたが、1等の景品はテレビ受像機でした。

国道 18 号の開削と直江津港河口分流工事

昭和 33 年には、産業の基盤となる国道 18 号の整備や直江津港の改修も進められました。

高崎市を起点とし直江津町八幡<sup>やわた 現西本町3
丁目交差点</sup>を終点とする国道 18 号は、上越市域では昭和 27 年 6 月 25 日に起工式が行われました。市域では、幅員を確保するため、それまで幹線であった国道 11 号<sup>旧北国
街道</sup>を避け、直江津町から現上越大通りのルートで順次工事が行われました。昭和 32 年までに藤巻までの開削が終了し、昭和 33 年には藤巻から新潟大学高田分校北側<sup>現上越高田駅
入口交差点</sup>までの開削が行われました。同区間の舗装工事は、翌 34 年に実施されました<sup>昭和 40 年 12 月 12 日、
に全区間の工事完了</sup>。

河口分流前の直江津港は、港内を土砂が埋めてしまうため、2、3 千トン級の貨物船でも港内に停泊できず、沖合で荷役をしなければならない状態でした。これを解消し 1 万トン級の貨物船も接岸できるよう直江津港河口分流工事が着手されました。昭和 31 年から 5 か年計画で開始されたこの工事は、用地補償の調停事務が先行して行われ、昭和 33 年 11 月 2 日に直江津中学校体育館で北村新潟県知事などを迎えて起工式が実施されました。同工事が完了したのは昭和 35 年 3 月 1 日で、昭和 38 年 6 月 29 日に初の 1 万トン級のイギリス船ロードバイロン号が直江津港に接岸し、その翌日には盛大な歓迎式典が行われました。

そのほかのトピック

雪の少ない年明け

昭和 32 年から 33 年にかけては、雪の少ない冬になりました。当時、高田測候所の最深積雪量<sup>積雪の深さ
の最大値</sup>の平均値は約 160 cm でしたが、同年は 63 cm でした。第 20 回市民スキー大会の前夜祭<sup>2月 14日
日開催</sup>では、金谷山スキー発祥記念塔から南本町小学校までたいまつ滑降が、本町通りではたいまつ行進がそれぞれ初めて行われたものの、翌日のスキー大会は中止になりました。また、前年に高田市が購入した除雪車も 2 月中旬まで試運転ができない状態でした。

小・中学生が多かった時代

上越市域の昭和 33 年と平成 29 年の人口、小・中学校数、児童・生徒数

平成 29 年(2017)の新潟県の人口は約 226 万人ですが、昭和 33 年は第一次ベビーブームの影響もあり約 252 万人

	人口	小学校数	児童数	中学校数	生徒数
昭和 33 年	241,831 人	99 校	38,521 人	46 校	14,794 人
平成 29 年	195,349 人	51 校	10,072 人	23 校	4,989 人

を数えました。同年の上越市域の人口は、現在<sup>平成 29 年 11
月 1 日時点</sup>よりも約 46,000 人多い 241,838 人でした。小学校数は 99 校<sup>ほかに分
校 12 校</sup>、中学校数は 46 校<sup>ほかに分
校 4 校</sup>で、いずれも現在の約 2 倍の校数がありました。さらに、小学校の児童数は現在の約 3.8 倍の 38,521 人、中学校の生徒数も現在の約 2.9 倍の 14,794 人で、人口全体に占める小・中学生の割合が高い時代でした<sup>昭和 33 年=22.0%
平成 29 年= 7.7%</sup>。

現在まで続く祇園祭と謙信公祭の原型

昭和 33 年、直江津港河口分流工事の本格着工を控えていた直江津市では、それまで別個に開催されていた港まつりと祇園祭を一本化して「港まつり」を実施しました。一方、高田市では 7 月上旬に祇園祭、8 月上旬に高田まつり(商工祭)が実施されています<sup>高田祇園祭と高田まつりは昭和 37
年に「高田祇園まつり」に統合</sup>。このほか、大正 15 年(1926)に始まった謙信公祭は、天正 5 年(1577) 9 月 13 日に七尾城で謙信が「十三夜の詩」<sup>「霜満軍営秋気清」
で始まる七言絶句</sup>を詠んだという伝承から、毎年 9 月 13 日に開催されていました<sup>13 日は謙信の月
命日にもあたる</sup>。33 回目となった昭和 33 年の謙信公祭も 9 月 13 日に開催され<sup>昭和 39 年から開催
日を 8 月下旬に変更</sup>、式典や剣道・柔道・弓道・相撲の競技大会が実施されたほか、春日山神社から春日山々頂にかけて 20 基のかがり火が焚かれました。